

巻頭言

ネガティブに見ることの効と罪

一般財団法人 日本建築総合試験所
副理事長 川瀬 博



平素より当法人の業務に格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

最近、遅ればせながらSNS（マイナーなもの）を見るようになって、また一年ぶりに高校の同期と会って飲む機会があって、世の中の多くの（というにはサンプルが少ないが）日本人が非常に我が国の将来を悲観的に捉えておられて、日本はもう駄目だ、我々は中流国になってしまう、と本気で将来を心配されていると感じました。確かに円安は着実に進行し、それに合わせてインフレも予想外の速さで進行し、それに対して給料はゆっくりとしか増加せず、実質賃金は目減りしているとの報道がなされています。長年恒常的デフレ経済に慣れてしまった我々にとって、ここ数年の物価上昇は非常に急激に感じられ、そのトレンドを外挿すれば悲観的な将来像しか描けないことは確かです。研究分野でも上位10%の論文数がついに韓国にも抜かれて世界で13位になったとの報道もあります。さらに毎年の猛暑で気候変動の影響が確実に日常生活に及んでいることも実感させられます。

しかしながら、同じものを見る際に、これをポジティブに捉えることもできます。世界を席卷したコロナ禍も3年間の格闘の末に人類と共存する状況に至りました。円安もインフレも確かに進行しているかもしれませんが、我が国は世界に誇る長寿命社会であり、そこには活用されていないであろう豊富な人材があります。女性の社会進出も進展してきたとはいえ、世界的にみれば道半ばの水準に過ぎません。気候変動への対応は新たな研究や投資の種を供給してくれます。何よりも我が国には世界に誇る高い安全性と豊富な水があります。そして自分を犠牲にしても他の弱者を優先する高い社会性が文化として根付いています。この強みは往々にして我々にとっては当たり前すぎてプラスのポイントとしてカウントされないことが多いのですが、それが我が国の安定した経済活動を支える強固な基盤となっていることはもっと重要視されてしかるべきだと思います。

ものごとをネガティブに捉えることの「効」は、それを最悪想定としてそれを避けるために、あるいは改善するためにどういう方策があるかを考えるためのヒントを提供してくれるという点にあります。一方その「罪」は、その最悪想定に人々を囲い込み、新しいことにチャレンジする気力を奪い、どうせ何をやっても無駄だという気分させて思考放棄を招いてしまうという点にあります。GBRCは、これからも常に前向きに考えるチャレンジ精神を鍛え続け、一つでも多くの問題解決に貢献する法人でありたいと考えています。